バリウム流入（誤嚥）事故の概要

事業主催者	福岡市（保健福祉局、健康増進課）
事業受託者	（公財）福岡県すこやか健康事業団
事業名	胃がん検診
日時	平成27年8月5日 午前10時05分
場所	公民館
受診者	女性（当時73歳）

名称変更（令和2年）

（公財）福岡県すこやか健康事業団

→（公財）ふくおか公衆衛生推進機構

- 胃がん検診で胃透視をするためバリウムを飲んだそのほとんど（130CC）が肺に流入（誤嚥）。
- 過去に例がないほどの大量のバリウム誤嚥にも拘らず、タクシーで北口内科消化器科医院へ行くが手に負えないと
のことで移送し総合病院福西会を受診。すでに1時間以上経過し多量のバリウムは固形化してしまい取り出しは
できず。体力が衰弱し嚥下機能も低下していたため福大病院で胃ろう造設手術を受ける。その後、リハビリに励ま
れ胃ろうを外し食事が口からもとれるようになり自宅で簡単な家事をするまでに回復されたが、肺の機能は徐々に
悪化し急性呼吸不全で事故から5年目の令和2年8月にご逝去。
- 「健康を願って受けた健康診断で、二度と私のような苦しみや無念さを味わう人が出ないようにしてください」は遺
言となった。「**健康診断で何故このような事故が起きたのかの真相究明をしていただき、再発防止に努めていた
だきたい**」と家族から市や事業団に再三調査を依頼して報告を受けたが未だ納得できないまま協議が継続中。